

令和 7 年 1 月 28 日

鳥取県立厚生病院経営強化プランの進捗

鳥取県立病院では、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、令和5年度に鳥取県立病院経営強化プランを策定し、必要な取り組みについて定めている。

経営強化プランで定めた取組について、令和5年度における鳥取県立厚生病院の進捗状況を報告し、評価するもの。

(自己評価:◎＝順調、○＝概ね順調、△＝要改善)

① 高度急性期医療等の提供

1. 二次医療圏内における高度急性期・急性期医療の提供
2. 二次医療圏内における専門性の高い医療の提供
3. 特殊医療への対応

令和5年度における主な取組	自己評価
＜二次医療圏内における高度急性期・急性期医療の提供＞ ○高度医療や救急医療、五大がんをはじめとする各種がん医療、周産期医療、災害医療等の分野において圏域における中心的な役割を果たした。 ・高度急性期、急性期医療を担う医療機関としての役割を踏まえ、各種検査機器、手術機器等の医療機器の計画的導入・更新を進めた。 ・各種急性期リハビリテーションの実施により、早期退院、ADLの向上を促進した。 ・手術室空調設備整備(急性期機能の維持)、高圧受電設備改修(非常時災害時の医療機能の維持)に着手した。年次的・計画的に進めてきた病棟内装等改修(療養環境の改善)が完了した。 ・R5年3月にRI装置を更新し、急性期心臓疾患の患者に対しより短時間での心筋の評価が可能となった。 ＜二次医療圏内における専門性の高い医療の提供＞ ○二次救急医療提供施設ではありながら、三次救急相当の役割を期待されている状況に鑑み、当院への救急搬送の集中化に対応可能な施設・設備整備、医師、看護師等人員体制の整備と運用強化に努めた。 ・当院ヘリポートをドクターヘリランデブーポイントとして使用するための体制を整えた。 ・中部小児科医会と連携し、今後も中部小児休日急患診療事業を継続する。 ・地域がん診療連携拠点病院の指定更新(令和9年3月31日まで) ・脳血管疾患に対する急性期医療を引き続き担当するとともに、脳卒中地域連携クリティカルパスの運用を促進し、回復期へのスムーズな移行に努めた。 ＜特殊医療への対応＞ ○臓器提供、災害医療、感染症医療において圏域における中心的役割を果たした。 ・令和6年能登半島地震 DMAT 隊派遣、看護師派遣(市立輪島病院) ・大規模水害時における県中部地域の災害時医療提供に関する協定書に基づき社会医療法人仁厚会との DMAT 本部移設合同訓練を継続した。 ・改正感染症法に基づく新興感染症発生時における医療措置に係る協定締結(病床確保、発熱外来開設個人防護具の備蓄等)	◎

② 医師・看護師等の確保と働き方改革

1. 医師・看護師の確保と育成
2. 医師の働き方改革について
3. 研究・研修体制の充実
4. デジタル化への対応
5. 医療安全の向上
6. 院内保育の整備

令和5年度における主な取組	自己評価
＜医師・看護師の確保と育成＞ ○初期臨床研修医、専攻医の積極的受入れ、各職種の学生の実習などの受入れ及び研修の充実を図った。 ○認定看護師等 ・新規取得:皮膚・排泄ケア認定看護師(B 課程)1 名、認知症看護認定看護師(A 課程)1 名。 ・クリティカルケア認定看護師教育課程、摂食嚥下障害看護認定看護師教育課程に各 1 名、研修受講修了した。 ＜医師の働き方改革について＞ ○医師労働時間短縮計画(令和4年 10 月から令和6年3月まで)を策定。ICカードを活用した勤務時間管理、タスクシフト等により、時間外・休日労働時間の時間数について、A水準(960 時間)を達成した。 ・特定行為研修修了者3名が活動を開始。 ・リハビリスタッフ全員のがんのリハビリテーションの資格所得の達成の他、コメディカルの指定研修受講を進めている。 ・医師事務作業補助者を安定的に確保した。 ＜デジタル化への対応＞ ○DPC分析を活用した診療実績のベンチマーク結果や指導料・管理料の算定状況を情報共有することにより、関係部署において経営向上の取組が行えるよう働きかけた。 ○医療情報システムにおける情報セキュリティリスクの現状を正しく把握することを目的として、外部委託による監査を実施した。	◎

③ 地域連携の促進と圏域のネットワーク化

1. 地域連携の推進及び地域連携センターの機能強化
2. 再編及び圏域のネットワーク化
3. 病院機能の広報と啓発

令和5年度における主な取組	自己評価
＜地域連携の推進及び地域連携センターの機能強化＞ ○地域医療支援病院として、地域の医療機関等相互の連携と機能分化を推進するとともに、脳卒中、5大がん等地域連携クリティカルパスによる機能分担に沿った当院の役割を果たした。 ・令和5年9月～更年期障害相談窓口設置 相談件数:12 件(内訳:男性 3 件 女性 9 件) ・オープンシステム、共同利用の促進、医科薬科連携(持参薬整理)、医科歯科連携(術前口腔ケア等)の継続 ・中部地域の病院・診療所の意見交換会の再開、地域の医師を講師として招聘した地域連携学術セミナーの開催など後方支援病院との連携を深め、地域連携の強化を図った。 ・鳥取大学医学部附属病院「脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業」により、当院で対応できない急性期心臓疾患の医療連携体制を構築した。	◎

<病院機能の広報と啓発> ○ホームページ、SNS、広報物を活用した情報発信、健康公開講座、ケーブルテレビ番組の制作を継続した。 ・ホームページ、病院案内(冊子)、入院のごあんない(冊子)をリニューアルし、アクセシビリティの向上を図った。 ・SNSを開始し、情報発信を強化することで、ホームページへのアクセスを促したり、リクルート活動の強化を図った。	
---	--

④ 健全経営の確保

1. 基本事項
2. 収益の確保
3. 経営効率化対策の推進

令和5年度における取組	自己評価
○適正な医業収益の確保・増収に努めるとともに、地域に求められる医療を踏まえた必要な額の繰出し等を受け当院の使命を遂行した。 ・新たな施設基準の取得等による収益確保。[]内は算定開始月、年間増収見込み額。 病理診断管理加算[令和5年4月、2,000千円] 術後疼痛管理チーム加算[令和5年8月、500千円] 栄養サポートチーム加算[令和5年9月、2,400千円] 組織拡張器による乳房再建手術[令和6年2月、923千円] ・病床稼働率の向上(入院日数の適正化)と新入院患者数の増加を目指し、医業収益の確保を図った。 ・人件費、輸送費等高騰する中、医療機器、診療材料、医薬品等の購入に当たり共同購入組織やベンチマーク等を活用した価格交渉を行うことで適正な価格での購入に努めた。	○

○主な数値目標及び実績

(単位:百万円)

		R5	R6	R7	R8	R9
医業収益	目標	7,522	7,984	8,130	8,159	8,203
	実績	7,217	-	-	-	-
	差引	△305	-	-	-	-
医業外収益	目標	1,487	979	974	968	917
	実績	1,477	-	-	-	-
	差引	△10	-	-	-	-
特別利益	目標	19	79	89	93	96
	実績	8	-	-	-	-
	差引	△11	-	-	-	-
医業費用	目標	8,748	8,891	8,738	8,696	8,676
	実績	8,303	-	-	-	-
	差引	△445	-	-	-	-
医業外費用	目標	421	444	440	420	416
	実績	425	-	-	-	-
	差引	4	-	-	-	-

特別損失	目標	8	20	20	20	20
	実績	10	-	-	-	-
	差引	2	-	-	-	-
修正医業 損益	目標	△1,226	△907	△608	△537	△473
	実績	△1,049	-	-	-	-
	差引	177	-	-	-	-
經常損益	目標	△160	△372	△74	11	28
	実績	△34	-	-	-	-
	差引	126	-	-	-	-
純損益	目標	△149	△313	△5	84	104
	実績	△36	-	-	-	-
	差引	113	-	-	-	-